

## 令和四年度 卒業証書授与式 学校長式辞

早田川の桜の枝には既に小さな蕾がほころび、春の兆しを感じられる今日のこの佳き日に、本校PTA会長 小森 崇稔（たかとし）様、同窓会長 篠田典子 様をはじめ、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度岐阜県立岐阜北高等学校卒業証書授与式を挙げてきましたことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました三百五十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前、自分も皆さんの入学とともにこの岐阜北高校に赴任しましたが、満開の桜のもと、期待と不安に胸を膨らませた皆さんの本校での生活の第一歩が始まります、と祝辞を述べた翌日から、長期の休校になったことは忘れることができません。

その年の一月の上旬、中国の武漢で新型の感染症が拡大しているとのニュースは、まだ遠い他国の一地域の話でした。しかし、二月のダイヤモンドプリンセス号の事件では、香港で下船した一名を感染源として、隔離された船内で次々と感染が拡大し、最終的に七百十二人が発症、十四人が死亡、対策に入った検疫官や医師九人も感染する惨事となり、その後、下船した乗客から全国に感染が広がりました。同時期にヨーロッパでの感染爆発と多数の死者の報告が恐怖をあおりました、岐阜県内でも経路が特定できない感染者が複数名報告されるに至り、緊急の休校措置がとられたものです。

令和二年度は、その年に予定されていた創立八十周年記念事業も含め、当初の年間計画は全て白紙となり、ゼロから再構築していきました。スクール・ポリシー「荒野をひらく探究人」は、生徒への願いを込めて前年に策定されたものですが、その力はすぐに求められるものになりました。

学校再開後も、何をすべきで、何をすべきでないのか、根拠や考え方を明確にしながら、リスクを計算し、時に延期や中止の判断をし、工夫改善して形を変えながらも前に進むことの大切さを、学校は生徒と共に学んでいきました。授業方法の改善、北高祭や修学旅行など各種行事、校則の見直しや校内環境の整備まで、教員と生徒が意見を交換しながら北高を創り上げてきた三年間だったと思っています。

生徒を一人の大人として信頼し、対話をしながら共に成長することが理想の学びです。三年前の入学時には、北高の制服を着ていなければ中学生と間違えるかもしれない幼く見えた皆さんが、時を経て、生徒会や委員会活動、その他様々な場面での発言には、視界の広さ、前向きな考え方や姿勢など、我々教員が真正面から向き合う必要があると感じ、身が引き締まる思いでその成長を見てきました。

三年が経ち、大学の合格の報告に来てくれた皆さんの姿は、心身ともに凛々しく、逞しく、自信に溢れ、かつ素直で明るく、健康的に成長した一人の立派な成人であり、その姿を見て、改めて皆さんと一緒に過ごせたことを誇りに思います。

このコロナ禍もいよいよ収束に向かおうとしています。

アフターコロナの世界は、もとの生活に戻るのではなく、この貴重な経験を経て我々が獲得した様々な知識や技術の進歩、価値観の転換を踏まえ、社会はより良い方向に進化・発展していくと考えます。そして、その最前線に立って新しい世界の創造のために活躍するのは皆さんです。

現在、ロシアのウクライナ侵攻や、北朝鮮の不穏な動き、台湾有事の懸念、大規模災害や新たな

な感染症等、我々の平和と発展を脅かす課題はいくつも現れるでしょう。それらを一つ一つ皆さんの「若き命」と「高き志操」、そして「英知」をもって、より良い解決策を導き、前進して欲しいと思います。

最後に、様々な不安な思いを抱きながらも、学校を信頼して子どもたちを預け、見守り、ご支援をいただいた保護者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

子どもたちはこの三年間、様々な経験を積み、失敗や成功を繰り返しながら、学んできました。その姿を見守り、嬉しい時には共に喜び、ある時は励まし、時には一緒に涙をされ、陰に日にお子様の成長を支えてくださったご家族の皆様の深い愛情と絆に最大限の敬意を表しますとともに、子どもたちが自ら学び、判断し、挑戦し、最終的に選んだ進路を尊重していただき、彼らの新たな挑戦を、応援していただきたいと思います。

卒業生の皆さんがこれから羽ばたく新しい世界でのご活躍とご多幸を、今一度、心より祈念申し上げますとさせていただきます。

令和五年三月一日

岐阜県立岐阜北高等学校

校長 鈴木 健